

平成21年度補正予算の適正な執行を求める意見書

新政権の発足に伴い、政策の見直し、制度の変更が進められることになると思慮いたします。

国会においてはすでに、我が国が直面している未曾有の経済危機を克服するために、平成21年度予算及び同年度第1次補正予算が可決成立しています。総額で14兆円を超える第1次補正予算には、地域活性化・公共投資臨時交付金、地域活性化・経済危機対策臨時交付金、経済対策関連の自治体に交付される15の基金などの創設等が計上されており、各地方自治体は、当該基金などの活用を前提に、経済危機対策に資する事業を計画し、補正予算の議決と事業の執行を目指して、準備を行っているところです。

前述の経済危機対策事業についての予算執行が見直されることになれば、すでに関係事業を執行中、あるいは執行準備中で、当該事業の広報、周知が済んでいる地方自治体にとって、誠に憂慮すべき事態の発生が懸念されます。

万一、関係事業を中止せざるを得ない事態になれば、地方自治の混乱を招くだけでなく、地域雇用情勢にも深刻な打撃を与えかねません。

上記の状況を考慮し、政府におかれましては、政策の見直し、税制の改革、制度の変更にあたっては平成21年度予算及び同年度第1次補正予算によって、地方自治体の進めている施策や事業について、財源問題で執行に支障が生じることのないよう強く要請する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成21年10月 2日

沖縄県宜野湾市議会

あて先：内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣